

島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報

第9号

2015年度版

島根大学・寧夏大学国際共同研究所

目 次

はじめに	1
I 学術研究の交流	3
I - 1 セミナー関係	3
II 日中学術共同調査と共同研究等の成果	9
II - 1 銀川市農業技術研修団の来松	9
II - 2 2015年8月 李紅中国側副所長の受け入れ	10
II - 3 2015年8月 寧夏大学土木学院訪問団の受け入れ	11
II - 4 2015年10月 中国からの環境教育関係グループの招聘	11
II - 5 研究費の獲得	18
II - 6 著書・論文等	21
III 2015年度研究所活動の記録	24
III - 1 研究交流活動	24
III - 1 - 1 2015年8月青海大学, 西北農林科技大学訪問	24
III - 1 - 2 寧夏大学, JICA 訪問	27
III - 2 その他の交流記録	28
III - 2 - 1 寧夏・銀川連絡会	28
III - 3 資料・情報の提供	29
III - 3 - 1 翻訳, 資料収集と提供	29
III - 3 - 2 研究所メールマガジン『寧夏情報』	29
III - 3 - 3 研究所『ニューズレター』	29
III - 4 その他の活動等	29
III - 4 - 1 日本への留学支援	29
III - 4 - 2 研究所来訪実績	29
IV 研究所の組織	30
V 資料その他	31
V - 1 国際共同研究所ホームページ・トピックス	31
V - 2 寧夏プロジェクト報告用ポスター	36
V - 3 事業計画	36

はじめに

島根大学・寧夏大学国際共同研究所は、中国西部の少数民族自治区、寧夏回族自治区の区都・銀川市の寧夏大学のキャンパス内に設置されています。寧夏大学は、自治区を代表する大学であり、211大学に指定されている総合大学です。

本研究所の特色は、日本の大学として唯一、中国西部の大学と共同で運営している研究所であり、多くの日本の大学の在中国サテライトセンターが沿海部の大都市にあるのに対して内陸部に存在し、独立した建物を有し中国側のスタッフとともに共同研究と人材育成を経常的に行っていることです。

寧夏は「塞上江南」と呼ばれるように黄河の恵みを受けて発展してきました。銀川市周辺の黄河流域は豊かな穀倉地帯でもあり、乾燥地も徐々に改変され野菜、クコ、ブドウ畑、ワイン製造など豊かな地域です。

経済成長の著しい中国では、沿海部の大都市から地方都市・その周辺部へと急速に発展しています。そのため経済発展にともなう社会・産業構造の急速な変化と人口流出がみられ伝統的農村社会が急速に変化しています。この変化は50年前に日本の高度経済成長期に経験してきた諸問題が、中国では現在各地の農村部で極めて急速に起こっています。

また経済発展と不十分な環境意識と環境対策によって、空気・土壌・水の環境汚染が著しく、地球的な気候変動によって干ばつ・洪水など広範な環境問題が起こっています。環境問題は経済的豊かさが実現されて初めて人々の意識に上るものかも知れません。しかし手遅れにならないように、また日本の経験を生かして、人々の環境意識を喚起することが必要で、本研究所を中心として環境対策や環境教育のプロジェクトを進めています。

本研究所では中国側及び日本側研究者との共同研究の推進とともに、共同研究の中で地域の発展に資する若手人材育成を主要な目的として活動しています。また本研究所は、寧夏回族自治区を中心に、中国西北部地域の情報を収集・分析・発信するとともに、研究者のみならず、企業や自治体に対しても利用可能な開かれた調査研究拠点として、重要な役割を果たすことを目指しています。

本年報は、2015年度の活動をまとめたもので第9号となります。活動の記録によって今後の活動に役立てるほか、広く学内外に向けて研究所の活動を公にし、研究所とその成果を活用いただければ幸いです。本研究所を中心として、寧夏大学の他、中国西部の主要大学との学術ネットワークを拡大中で、ネットワークのメンバーとともに2014年度より島根大学戦略的プロジェクト経費（学長裁量経費）「中国西部学術ネットワーク拡大による島根大学プレゼンスの増強—環境教育実践システムの移転とグローバル人材育成—」を開始し、ますます国際共同研究を発達させているところです。ますますのご支援とご関心のある方の参加を歓迎します。

本年報には従来から引き続き、諸活動に関連する記録や資料などを掲載しています。

2016年3月

島根大学・寧夏大学国際共同研究所
日本側所長 伊藤勝久

I 学術研究の交流

I - 1 セミナー関係

基調報告

ホームページの文言（V-1 国際共同研究所ホームページ・トピックス 参照）

第一分科会の様子

主に自然科学系の分科会で、中部乾燥帯の牧畜家畜数に影響する自然因子の特定の試み（宋乃平）、施設におけるナツメの促成栽培技術（曹兵）、植生と乾燥指数の変化のリモセンデータによる分析（杜靈通）、砂漠地の植物群生内の土壌動物の生態的分析（劉任涛）、気温と乾燥度に対するナツメの成長と光合成特徴（宋麗華）、石炭灰の総合的利用（張文博）および日本の過疎地域における外部からの支援者と地元住民意識の比較分析（伊藤勝久）であった。伊藤（司会）以外は自然科学系の報告であり、土木水利工程学院から初めての参加があった。大変興味深い報告が多く、十分な議論ができた。

第二分科会の様子

主に社会科学系の報告で、少数民族地域の小中学校の環境教育（李隴堂）、彭陽県の農家の環境行動特性と影響（張小盟）、グローバル状況下のシルクロードのツーリズム（王鋒）、世界の環境教の動向～GAP という新しい視点（松本一郎）、日本のイスラム教の研究（蔵志勇）、環境教育の国際比較～大学生の環境意識（李婉 島大院生）、寧夏における環境クズネット曲線（李子龍 寧大院生）というものであった。寧夏の環境教育の中心である李隴堂（司会）により主として環境関連の報告が多く充実した分科会であった。

最後に総括のための全体集会が行われた。今回は報告数は若干少なかったが基調報告も含め充実した議論ができたと思われる。

第13回寧夏大学・島根大学国際学術セミナー

開催概要

一、日時、会場

1、日時：2015年10月15日（木）～16日（金）

2、会場：

寧夏大学A区行政棟六階会議室（開幕式、主題報告）

寧夏大学A区中日国際共同研究所三階学術報告庁（第1分科会場）

寧夏大学国際交流センター三階第一会議室（第2分科会場）

二、テーマ

グローバル背景下での多学科、多分野における持続可能な発展に関する研究

- 1、農林業、食品、水環境、資源保護、経済発展問題に関する研究
- 2、世界経済の低迷への対応とその農村に対する影響に関する研究
- 3、中国寧夏南部山区と日本中山間地域に関する問題の比較研究
- 4、生態システムの探索、及び環境保護・再生と農村経済社会の発展の関連性に関する研究
- 5、「一带一路」政策に関わる国際間の持続可能な発展に関する研究
- 6、中日両国の民族学、宗教学、教育学等に関連する研究
- 7、その他

三、主催等

- 1、主催：寧夏大学、島根大学
- 2、共催：日本学術振興会北京研究連絡センター，寧夏大学国際合作処
寧夏大学発展計画学科建設処，寧夏大学科学技術処
- 3、実施者：寧夏大学・島根大学国際共同研究所
- 4、参加部門：島根大学生物資源科学部，島根大学教育学部，
寧夏回族自治区教育厅国際合作与交流処
寧夏回族自治区人民政府外事弁公室アジア・アフリカ処
寧夏大学宣伝部，寧夏大学国際合作処，寧夏大学発展計画学科建設処
寧夏大学科学技術処，寧夏大学人事処，寧夏大学外国語学院
寧夏大学経済管理学院，寧夏大学農学院，寧夏大学政法学院
寧夏大学土木水利工程学院，寧夏大学物理電気信息学院
寧夏大学西部生態生物資源開發聯合研究センター
寧夏大学資源環境学院，寧夏大学回族研究院

四、参加人数

50 余名

五、事務局

1、責任者

中国側：王 鋒 日本側：伊藤勝久

2、事務・広報グループ： 担当：劉 曄、李 楊

3、学術グループ： 担当：李 紅、藏志勇、田中奈緒美

六、会議形式及びスケジュール

1、会議形式 主題報告、分科会による学術交流

2、スケジュール

(1) 受付 2015年10月15日(木) 9:00-12:00

会場：寧夏大学中日国際共同研究所一階 貴賓室

(2) 2015年10月15日(木)

14:30 ① 開幕式

場所：寧夏大学 A 区行政棟六階会議室

寧夏大学副校長 謝応忠 教授 あいさつ

島根大学元副学長 保母武彦 教授 あいさつ

司会：中日国際共同研究所中国側所長 王鋒 教授

② 記念撮影

③ 主題報告

報告者：島根大学元副学長 保母武彦 教授

寧夏社会科学院 陳通明 研究員

寧夏大学 左 理 教授

司会：中日国際共同研究所中国側所長 王鋒 教授

(3) 2015年10月16日(金)

8:20 ① 分科会

場所：

第1分科会：寧夏大学中日国際共同研究所三階学術報告庁

第2分科会：寧夏大学国際交流センター三階第一会議室

11:55 ② 閉幕式

場所：寧夏大学国際交流センター三階第一会議室

総括：王 鋒 中国側所長

司会：伊藤 勝久 日本側所長

第13回寧夏大学・島根大学国際学術セミナー スケジュール

時 間		場 所	内 容	
10. 14		空港	李紅、藏志勇 送迎担当	
10. 15	9:00-12:00	寧夏大学 A 区 中日国際共同研究所一階 貴賓室	受 付	
10. 15	11:30-13:30	寧夏大学 国際交流センター レストラン	昼食（費用各自負担）	
	14:30-14:35	寧夏大学 A 区 行政棟六階会議室	開幕式	司会：寧夏大学中日国際共同 研究所 王鋒所長
	14:35-14:45			寧夏大学 副校長 謝応忠 教授 あいさつ
	14:45-14:55			島根大学 元副学長 保母武彦 教授 あいさつ
	14:55-15:20			記念撮影
	15:20-15:30			休憩
	15:30-18:00			主題報告 司会：王鋒 教授 報告者（講演 25 分钟、通訳 25 分钟） 島根大学 保母武彦 教授 寧夏社会科学院 陳通明 研究員 寧夏大学 左 理 教授 通訳：藏志勇、于虹、崔沫舒
	18:30-20:00	寧夏大学 国際交流センター レストラン	寧夏大学主催 通訳：藏志勇、田中奈緒美、 崔沫舒、李楊	
19：20 松本一郎教授空港出迎え				
時 間		場 所	内 容	
10. 16	8:20-11:45	寧夏大学 中日国際共同研究所 三樓学术报告厅	第1分科 会場	テーマ：自然科学 司会：伊藤勝久 教授 コメント：宋乃平 教授 曹 兵 教授 通訳：楊秋寧、田中奈緒美
		寧夏大学 国際交流センター 三階第一会議室	第2分科 会場	テーマ：社会科学 司会：李隴堂 教授 コメント：張小盟 教授 松本一郎 教授 通訳： 藏志勇、李婉
	11:45-11:55	休 憩		
	11:55-12:10	寧夏大学 国際交流センター 三階第一会議室	閉幕式	司会：伊藤勝久 教授 総括：王 鋒 教授 通訳：藏志勇、韓芳
	12:30-14:00	寧夏大学 国際交流センター レストラン	昼 食	
10. 17	空港送迎：王鋒，劉曄，李楊			

第 13 回寧夏大学・島根大学国際学術セミナー 分科会スケジュール

10 月 16 日午前 第一分科会

自然科学		責任者：李紅		
司会：伊藤勝久 教授		コメンテーター：宋乃平 教授，曹兵 教授		
会場：寧夏大学中日国際共同研究所三階学術報告庁 時間配分：発表 10 分；通訳 10 分；質疑 5 分				
時間	发言人	单位	职称	发言内容
8:20-8:45	伊藤勝久	島根大学 生物資源科学部 中日研究所	教授、 所長	過疎地域振興に関わる外部からの応援隊と 地域住民 -地域おこし協力隊・集落支援 員・I ターン者と地域住民意識-
8:45-9:20	宋乃平	寧夏大学西北 生態研究中心	主任、 教授	農牧交錯地帯の牧畜業システムの変動性と その影響要素に関する分析
9:20-9:45	曹 兵	寧夏大学農学院	副院长 教授	靈武長ナツメの施設農業による早期栽培 技術
9:45-10:20	杜靈通	寧夏大学西北 生態研究中心	副研 究員	温度植生乾燥指数に基づく寧夏の 2000-2010 年の乾燥状況の変化特徴
10:20-10:45	劉任涛	寧夏大学西北 生態研究中心	副研 究員	砂地灌木が土壤生物の分布に与える影響と その生態的作用
10:45-11:20	宋麗華	寧夏大学農学院	教 授	気温の上昇と乾燥の脅威が靈武長ナツメの 生長と光合特性に与える影響
11:20-11:45	張文博	寧夏大学土木水 利工程学院	副教授	寧夏寧東エネルギー化学工業基地における フライアッシュの総合利用現状に関する 分析と対策
11:45-11:55	休 憩			
11:55-12:10	閉幕式：寧夏大学国際交流センター三階第一会議室			

10月16日午前 第二分科会

社会科学		責任者：藏志勇		
司会：李隴堂 教授		コメンテーター：張小盟 教授，松本一郎 教授		
会場：寧夏大学国際交流センター三階第一会議室 時間配分：発表10分；通訳10分；質疑5分				
時間	发言人	単位	职称	发言内容
8:20-8:45	李隴堂	寧夏大学 資源環境学院	副院長 教授	少数民族地域における小中学生への 環境教育に関する分析
8:45-9:20	張小盟	寧夏大学 経済管理学院	教授	彭楊県の農戸の環境保護活動の特徴 及びその影響要素について
9:20-9:45	王 鋒	寧夏大学中日 国際共同研究所	教授	グローバル化視野における シルクロード経済地域と特色ある 西部の観光資源の優位性に関する研究
9:45-10:20	松本一郎	島根大学 教育学部	教授	グローバル化世界の環境教育の動向 -新たな視点 GAP について-
10:20-10:45	藏志勇	寧夏大学中日 国際共同研究所	副教授	東西文化差異背景下における 日本のイスラム教とムスリムに関する 研究
10:45-11:20	李 婉	島根大学 教育学部	大学 院生	環境教育の国際比較 -大学生の意識調査から-
11:20-11:45	李子龙	寧夏大学 経済管理学院	大学 院生	寧夏における 環境 Kuznets 曲線のデータに基づく研究
11:45-11:55	休 憩			
11:55-12:10	閉幕式：寧夏大学国際交流センター三階第一会議室			

Ⅱ 日中学術共同調査と共同研究等の成果

Ⅱ - 1 銀川市農業技術研修団の来松

1. 実施の経緯

2014年12月3日、提携10周年を記念して、来松した銀川市訪問団人民政府李艶麗副局長と市長が会談した。松江市からは経済交流、技術協力などの交流を提案し、銀川市からも様々な分野の更なる交流の発展に言及があり、特に有機米の栽培技術指導について要望があった。

2. 銀川市有機農業技術研修について

(1) 事業内容

銀川の稲作（有機米）の生産性を高めるには、育苗、除草、害虫対策、施肥など技術向上が必要であり、技術指導をしてほしいとの要望があった。それを受けて、島根県、島根大学、JAなどの協力を得て、銀川市農業関係者受入及び農業の専門家派遣を行う（クリアモデル事業に採択）。

○受入・・・4泊5日 10名（公務員5名、農業者5名）

※銀川市農牧局局长、銀川市科技局副局长、銀川市经济技术協力・外事僑務局副局长、銀川市農牧局办公室主任、灵武市農牧局副局长、寧夏興唐米業グループ董事長、寧夏昊王米業グループ有限公司總經理、永寧県曹東現代農業専門合作社理事長、永寧県九縁香米業有限公司總經理、寧夏天天鮮野菜果物有限公司董事長

○派遣・・・1週間程度4名（5月末～6月）

(2) 銀川側課題

- ①育苗（苗の生産、苗の定着）
- ②肥料（有機肥料の製作、使用方法）
- ③除草・害虫対策
- ④ブランド化、販売・流通の改善

(3) 研修受入

- ①日程 5月 7日（木）18：00頃 松江市着
5月 8日（金）～10日（日）視察研修
5月11日（月）朝 松江市発

②視察先

JAの関連施設

- ・中海干拓営農センター、中海干拓育苗センター、中海干拓研修センター
- ・カントリーエレベーター、ラック倉庫
- ・ライスフィールド

島根県農業技術センター

③視察概要_島根県農業技術センター

5月9日(土)午前中に銀川市農業技術研修団一行が島根県農業技術センターを視察した。センターでは水稻等の有機栽培技術を確立するために、新しい機械除草方法や耕種的除草方法、有機物の施用方法の開発に取り組んでいるが、とくに水田用除草機による栽培研究の成果や技術の概要について説明や現地見学を行った。雑草対策の基幹技術となる水田用除草機+回転ブラシによる除草の機械については熱心に質疑が交わされた。



II - 2 2015年8月 李紅中国側副所長の受け入れ

7月14日から18日まで、中国側副所長の李紅先生が島根を訪問された。

○訪問目的：教育学部の松本一郎教授の取り組む島根大学における環境教育の実施状況及び日本の小中学校における部活動の状況の視察

○日程：

- 7月14日 18:15 出雲空港着 (一戸副所長、田中研究員、藤原補佐、山根課員出迎え)
- 7月15日 午前 島根大学教育学部にて松本教授と情報交換
午後 島根大学教育学部附属小学校及び附属中学校にて部活動の視察
夜 研究所日本側所長・副所長主催によるレセプション
- 7月16日 松江市・出雲市周辺視察(関副所長、田中研究員同行)
- 7月17日 台風のため乗車予定だった高速バスが運行取り消しに。松江市滞在。
- 7月18日 午前 高速バスにて大阪へ移動し、土木学院訪問団と合流

寧夏大学土木学院訪問団(II-3)と同じプロジェクト経費で訪日。研究所で取り組む環境教育プロジェクトに加えて、日本の学校教育に興味があったことから、訪問団本体よりも一週間早く来日し、島根滞在を実現した。

Ⅱ - 3 2015年8月 寧夏大学土木学院訪問団の受入れ

8月9日から10日まで、寧夏大学土木水利工程学院の訪問団4名が島根を訪問された。

○訪問者：

	氏名	性別	職位	研究分野
1	毛明傑 (MAO, Mingjie)	男	副学院長 副教授	土木プロジェクト構造, 新型建築材料
2	楊秋寧 (YANG, Qiuning)	女	副教授	土木プロジェクト構造, 新型建築材料
3	張文博 (ZHANG, Wenbo)	男	副教授	土木プロジェクト材料
4	夏国平 (XIA, Guoping)	女	副教授	橋梁プロジェクト

○訪問目的：同分野の島根大学教員と面会、今後の学術交流の可能性等について意見交換

○日程：

8月9日 JRにて山口から松江へ移動（田中研究員出迎え）

8月10日 午前 島根大学訪問

総合理工学部の丸田誠教授と面会、意見交換

（伊藤所長、関副所長、藤原補佐同席）

午後 斐川平野（今在家等）視察（関副所長、田中研究員同行）

夕方 JRにて大阪へ移動

4名ともに土木水利工程学院にてコンクリートや路面用タイル、床材の強度の研究に携わっている。今まで土木水利工程学院との交流はあまり行われておらず、新しい分野の開拓に期待が持てる。また、訪問メンバーのうち3名が山口大学の博士課程を修了しており、言語面での障害が少ない点も共同研究に有利である。

Ⅱ - 4 2015年10月 中国からの環境教育関係グループの招聘

○メンバー：

余勁（西北農林科技大）、王文略（同・講師、陝西農業大学講師）、李隴堂（寧夏大学）

湯青川（青海大学）

伊藤勝久、一戸俊義、関耕平、保母武彦、松本一郎、山岸主門、上園昌武

○日程：

	行程・行先	時刻	中国メンバー	日本側アテンド・通訳
10月23日 金	松江駅迎え 夕食 宿泊 松江市	20:00 20:00--21:00	余、湯、王 李	関、保母、周
10月24日 土	午前中 自由時間 昼食 各自 ホテル迎え 午後 自然再生センター(大橋川視察) 夕食 宿泊 松江市	13:00 13:30--17:00 18:00--20:00	余、湯、李、王	関、伊、松、保 周榆涵
10月25日 日	ホテル迎え 研究会(島根大学) 昼食 適宜 研究打合せ(島根大学) 夕食 宿泊 松江市	9:30 10:00--12:00 12:00--14:00 14:00--17:00 18:00--20:00	余、湯、李、王	関、伊、松、保、山、一、上 王欣、李婉、周榆涵
10月26日 月	ホテル迎え 研究打合せ(島根大学) 昼食 適宜 研究会(島根大学) 懇親会 宿泊 松江市	9:30 10:00--12:00 12:00--14:00 14:00--17:00 18:00--20:00	余、湯、李、王	関、伊、松、保、山、一 王欣、李婉、周榆涵
10月27日 火	車移動 ホテル迎え⇒伯耆町 森の幼稚園(伯耆町) 昼食 車移動 ⇒松江へ 大学の環境教育講義 夕食 宿泊 松江市	9:00--11:00 11:00--12:00 12:00--13:00 16:00--18:00 18:00--20:00	余、湯、李、王	伊、山 李婉、周榆涵 伊、松、山、李婉、関
10月28日 水	ホテル迎え 副学長表敬訪問、川向きサイクルプラザ 昼食 宍道もりふれクラブ(野田氏、市民向け森林環境教育) 車移動 松江市⇒津和野町 宿泊・夕食 津和野町	9:30 10:00--11:30 12:00--13:00 13:30--15:00 15:00--20:00 20:00	余、湯、李、王	保、関、伊 王欣、李婉、周榆涵
10月29日 木	津和野町農林課(久保課長) 昼食 津和野町観光・視察 柿木村有機農業(福原氏) 宿泊・夕食 津和野町	10:00--11:30 12:00--13:00 13:00--14:00 15:00--17:00 18:00	余、湯、李、王	保、関、伊 李婉、周榆涵
10月30日 金	車移動 津和野町⇒邑南町 邑南町教育委員会(土井教育長他) 昼食 邑南町農林振興課(上田課長他) 車移動 邑南町⇒滋賀県草津市 夕食 適宜 宿泊 草津市	9:00--11:00 11:00--12:00 12:00--13:00 13:00--15:00 15:00--20:00 20:00	余、湯、李、王	保、関、伊 周榆涵(李婉⇒帰松)
10月31日 土	滋賀県立琵琶湖博物館 昼食 適宜 移動 草津市⇒京都市 京エコロジーセンター(案内 遠藤氏) 解散(JR京都駅) 鉄道移動 京都⇒大阪(江坂)へ、大阪泊 車移動 京都⇒松江へ	10:00--12:00 12:00--13:00 13:00--14:00 14:00--16:00 16:30	余、湯、李、王 余、湯、李、王	保、伊 周榆涵 保、伊、周榆涵
11月1日 ~2日	フリー 大阪泊		余、湯、李、王	
11月3日 火	移動 ホテル⇒関西空港 ・江坂-(地下鉄)-なんば[乗換]-(南海電車)-関西空港など		余、湯、李、王	

○目的：

2014年度より戦略的経費により環境教育プロジェクトを開始し、2014年は中国西部地域の環境教育プログラムを形成するにあたって、都市住民・農民・大学生・小中学生の環境意識の調査を実施した。この分析により、中国の現在の状況と対象者に合ったプログラムを考案することを最終目標としている。2015年度は、調査した環境意識調査の結果を双方で分析しその結果を報告し合う共に、各地域で問題になっていることについて環境面から学術的分析を加えるための研究会を島根大学で行う。同時に本プロジェクトについて意識の共有を図り、研究経費の申請を日中双方で行うための研究分担、スケジュール、ゴールを明確にする。さらに、松江市、中国山地及び各地で行われている環境への取組み（市民への環境学習、大学の環境教育、環境NPOの取組み、廃棄物処理、水環境と汚染防止、自然の中で保育、農林業の環境的取組み、琵琶湖の環境保護、京都におけるモデル的環境学習センター）の視察を行った。



自然再生センター（大橋川視察）10/24

大橋川をクルーズしながら、松本一郎教授から宍道湖、大橋川、中海の成り立ちと環境的特性及び環境保全に対する取組みの説明を受けた。



研究会後の懇親会（島根大学付近）10/25

研究会では、以下のプログラムに基づき報告と検討を行った

10月25日（島根大学生物資源科学部2号館414会議室）		
10:00-10:40	日本の新しい政策動向；「地方創生」について	保母武彦（島根大学名誉教授）
10:40-11:20	中国西部反貧困研究	余勁（西北農林科技大学経済管理学院）
11:20-12:00	中国西部の荒漠化問題	保母武彦（島根大学名誉教授）
14:00-14:40	大学生環境意識与节能行为因果关系的实证研究—以西部地区3所高校为例	王文略（西北農林科技大学経済管理学院）
14:40-15:20	環境行動・環境教育活動と実践主体別特徴と課題	伊藤勝久他（島根大学生物資源科学部）
15:20-17:00	世界の環境教育の動向—新たな視点 GAP について	松本一郎（島根大学教育学部）

10月26日 (生物資源科学部3号館207ゼミ室)		
10:00-10:40	民族地区中小學生環境教育分析	李隴堂 (寧夏大學資源環境學院)
10:40-11:20	環境・エネルギー・廃棄物に関する世論調査分析	伊藤勝久 (島根大学生物資源科学部)
11:20-12:00	鵝絨委陵菜城市緑化人工建植試験	湯青川 (青海大學農牧學院)
14:00-14:40	青海省牧民对发展有机畜牧业的意愿调查分析	湯青川 (青海大學農牧學院)
14:40-15:20	生態脆弱地区移民問題	余勁 (西北農林科技大學經濟管理學院)
15:20-17:00	科研申請に関する打合せ	全員
17:10-17:50	大学生の原発への考え方	上園昌武 (島根大学法文学部)



森の幼稚園 (鳥取県伯耆町) 10/27

幼児を自然環境の中での保育は、現在の中国では考えにくいようであり、中国人研究者は非常に驚き、また良いシステムで中国でできればよいが無理であると羨ましがっていた。



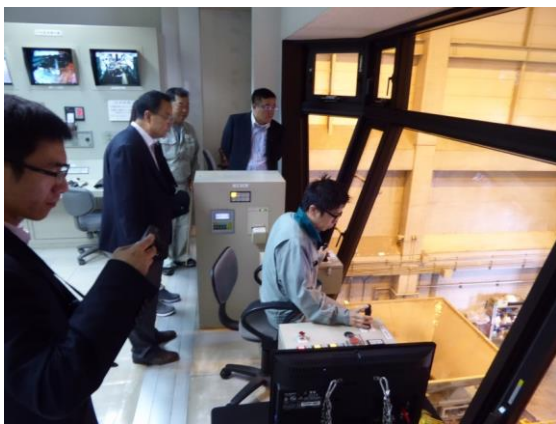
島根大学の環境教育講義聴講 (環境問題通論) 10/27

教養の通常講義に参加してもらい、日本人学生とともに環境教育を受講した。



副学長表敬訪問 10/28

寧夏大学、西北農林科技大とは大学間交流を締結しており、6月には出口副学長も西北農林科技大を訪問している。今後、環境教育プロジェクトが契機になり、多様な分野での共同研究・プロジェクトが展開されることが期待できる。



松江市川向きサイクルプラザ 10/28

松江市のごみ処理場の視察では、分別システムに皆が強い関心を持った。



松江市宍道町 もりふれクラブ

(野田氏、市民向け森林環境教育) 10/28

一般市民を対象とした森林系 NPO 活動の視察では、四季に応じて多くの活動をし、市民の中に自然保全の意識が根づいていることを理解した。



津和野町 環境対策、林業の新しい担い手 (津和野町農林課 (久保課長)) 10/29

手入れ遅れの森林を伐採し、森林の整備を図るとともに、その伐採木をエネルギー用材として利用する新しい仕組みの説明を受ける。伐採された木材を地域通貨とあわせて比較的高く買い取り、一般の森林所有者への動機付けになることと、地域内部で資源・エネルギーを循環する構想、さらに都市部から林業で就業したい若者を集め(地域おこし協力隊として)作業訓練とともに森林整備を行っていることに強い関心が示された。



吉賀町柿木村有機農業研究会（福原代表） 10/29

全国的にも有名な柿木村有機農業研究会の代表から、有機農業の取り組みの背景と現状について説明を受けた。地域住民の自発的な安全な農業、結果的には環境に配慮した農業について、多くの質問が出された。



邑南町教育委員会（土井教育長他）の
子供の環境教育について協議
はんざき自然館（瑞穂） 10/30

邑南町、子育て日本一の町の子供に対する環境教育について教育長と博物館館長から説明をうけた。とくに、自然が豊かな中で当たり前の環境を保全することについて教育すること、地域の住民を巻き込んで子どもたちに自発的関心を持たせ行動を起こすための工夫について説明を受けた。



滋賀県立琵琶湖博物館(学芸員に説明を依頼) 琵琶湖畔で 10/31



草津市の湖畔に位置する琵琶湖博物館では琵琶湖の地質的歴史、生活史、水質・環境保全の取り組みの歴史を展示しており、特に水質浄化に関して、条例制定から 30 年かかって現在の水質保全が達成されたという説明に強い関心が示された。



京（みやこ）エコロジーセンター（案内 遠藤氏）10/31

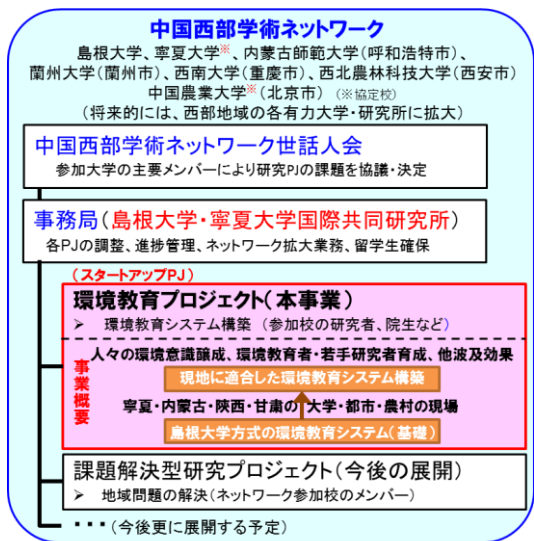
京エコロジーセンターは1997年のCOP3地球温暖化防止京都会議、京都議定書の成立を記念して建設されたもので、市民の環境教育の拠点となっている。ここでは環境教育に関する工夫された展示とともに建物自体も省エネ・環境親和的な工夫をされている。中国の環境教育の中心として、日中友好環境保全センター（北京市）内に、2015年12月に「日中環境技術情報プラザ」が開所されたが、当該プラザの設置にあたり、京エコロジーセンターの環境教育の手法と展示のノウハウが提供されている。なお、京エコロジーセンターは6月にJICA中国事務所を訪問した際に照会された施設で、環境教育を考える上で拠点となるべき施設が重要であることが良く分かるものである。

以上、2日間の研究会・討論会と5日間の視察では、日本の環境対策・環境教育について大方の理解が得られたと思うので、今後はこれらをもとに中国の各地に即した環境教育プログラムを検討することに役立てたい。

Ⅱ - 5 研究費の獲得

平成26年度進捗状況報告書及び平成27年度計画書（プロジェクト分）

事業名	中国西部学術ネットワーク拡大による島根大学プレゼンスの増強 —環境教育実践システムの移転とグローバル人材育成—		
事業計画期間	平成 26 年度 ～ 平成 28 年度		
総括責任者	伊藤勝久（島根大学・寧夏大学国際共同研究所所長）		
戦略名称	戦略3—1 中国西部学術ネットワーク	中期計画番号	40
平成26年度 予算額	2,000,000 円	平成27年度 要求額	4,500,000 円
<p>〔事業概要〕</p> <p>島根大学は2004年に島根大学・寧夏大学国際共同研究所を設置し、わが国の国立大学の中では唯一中国西部地域に独自の研究拠点をもち、2008年よりここを中心とし、西部地域を研究対象とする研究者の学術ネットワークを形成しつつある。2013年には寧夏大学、西北農林科技大学、中国農業大学、中国農業科学院とプロジェクト推進体制について協議を行い、実施体制について大きな方向性が決まった。本事業では、その初動として具体的にプロジェクトを動かし、今後各地の大学との研究交流、教育交流を通じて人材を育成し、またネットワークの基盤づくりとその拡大を推進しようとするものである。</p> <p>本事業においては、スタートアップ・プロジェクトとして、中国西部地域に適した環境教育の実践的方法論のシステム構築とその効果を検討するものである。</p> <p>その際に、島根大学で蓄積してきた環境教育のスキルを基礎にし、大学、初等・中等学校、市民・農民等のレベルで現地適合的に移転することで、西部各地における環境意識を高め、環境教育を実践できる人材を育成する。</p> <p>プロジェクトは島根大学と国際共同研究所が中心となり、寧夏大学の他、当面は西北農林科技大学、西南大学、蘭州大学、内蒙古師範大学、中国農業大学を協定大学とし、徐々に参加校を拡大し、それを契機に島根大学との学術交流協定校を増やしたい。</p>			



〔目的・緊急性・必要性〕

中国では急激な経済発展と拡大する地域格差解消のための無理な開発さらに気候変動の激化によって、荒漠化、空気・水・土壌の汚染が激しく、環境改善とその意識醸成は喫緊の課題である。わが国にとっても黄砂や汚染物質の飛来を緩和する必要がある。

また中国では大学をはじめ多様なレベルで環境意識醸成が進められているが効果的な方法はなく、**環境教育の方法論に対する関心は極めて高い**。

そこで中国西部地域において、島根大学方式の環境教育システムを基礎とし、**①環境教育システムを各地で構築し、②学生・住民を環境に配慮できるように教育し、また③環境教育を実践できる人材（日本人・中国人）を現地で育成**することを目的とする。

〔事業計画に対する平成26年度の進捗状況（見込みを含む）〕

【2014年6月】 寧夏大学（寧夏回族自治区銀川市）、西北農林科技大学（陝西省楊凌区）、西南大学（重慶市）の各大学を訪問し、研究の意義、目的、方法、スケジュールを説明し、カウンターパート及び担当学部の長からも賛同を得、プロジェクト事業への協力を取り付けた。また、西北農林科技大学、西南大学では副学長と面談し、いずれも大学協定締結にむけてプロジェクト研究を進めるという点で意見が一致した。（西北農林科技大学は985工程、211工程大学、西南大学は211工程大学でいずれも教育研究水準、学生の質は高い）

【2014年9月】 西北農林科技大学に寧夏大学、西南大学のカウンターパートに集まってもらい、具体的な研究内容と方法について討論を行った。それにより、中国の都市部・農村部において小中学生、大学生、一般市民・農民の環境意識を調査し、それぞれに適切な環境教育プログラムを作成することで意見が一致し、環境意識のアンケート調査をカウンターパートに依頼した。（中国国内では外国人研究者によるアンケート調査の実施が制限され、極めて煩雑な手続きを必要とするため）

【2014年10月】 アンケート項目について日中でインターネットを通じて議論し確定し、西北農林科技大学のカウンターパート（余勁教授）を窓口として、委託調査契約を締結。

【2015年2月】 契約に従い、アンケートを実施してもらいそのデータを整理したもの、アンケート票のPDFを送付してもらった。

【2015年3月】 北京において中国人民大学、中国農業大学の研究者に本プロジェクトを説明し協力の約束を得た。これによって北京市民の環境意識もアンケートにより実施する委託調査を締結する予定である。

【2015年4月】 現在、追加調査として都市住民、農民に対するアンケート調査（調査紙によるヒアリング調査）を寧夏回族自治区、陝西省、重慶市のそれぞれで実施中である。

（進捗状況に対する自己評価）

環境教育プログラムの作成の基礎となる環境意識の調査は予定通り進んでおり、これを日中で協力しながら分析中である。またアンケートの実施を通じて地域住民の環境改善意識が芽生えてきたことが確認された。西部ネットワークは本調査研究を通じて強まりつつあり、島根大学のプレゼンスが高まっている。

評
価

IV

〔平成27年度計画〕

・4～5月 中国で実施したアンケート調査と同様の項目で、日本においても人々の環境意識を調査し、日中比較を可能にする。(日本側メンバーだけで実施)

・5～6月 西北農林科技大学にカウンターパートに集合してもらい、それぞれが分析したアンケート調査結果を相互に検討する。それにより、中国版環境教育プログラムの大枠(達成目標、内容、方法)を確定する。(中国へ渡航3名)

・8～9月 カウンターパートの研究者(中国側3大学各2名)を日本に招聘し、日本の小中学校における環境教育の実態を視察し、また都市および農山村の市民に対する環境教育、市民団体の自発的な活動の参与観察を行い、日中の環境問題とそれに応じた環境教育の内容方法について、議論を行い、中国版環境教育プログラムの大枠の内容を固めていく。また同時に環境教育を担う人材教育についても検討を行う。(1週間程度の招聘、6名)

・10月 寧夏大学で開催される第13回日中国際学術セミナーにおいて、日中における環境意識の異同をまとめ、日本側および中国側から複数の報告を予定。(3名渡航)

・10～11月 セミナー終了後、中国に1週間程度滞在し、環境教育プログラム作成の具体的な作業を行う。その際に中国側の大学院生、若手研究者や小中学校教員にも作成作業に参加してもらい、また環境教育の担い手育成の研修会を実施する。

さらに、寧夏大学、西北農林科技大学、西南大学だけでなく、中国西部地域の各大学の関心のある研究者にも声をかけ、環境教育プログラムを西部各地域で実施する際の状況と留意点について討論を行う。(中国西部の各地域から研究者を寧夏に招聘、3名)

・12～3月 インターネットで連絡を取り合いながら、各対象に即した環境教育プログラムを作成する。次年度の計画(それらのプログラムを現場に適用して対象者の反応を観察・検討)にむけて方法を検討する。

プロジェクトメンバー

島根大学	伊藤勝久	松本一郎	山岸主門
西北農林科技大学	余 勁	張 紅	--
寧夏大学	李龍堂	張小盟	--
西南大学	田 阡	管 超	--
中国農業大学	胡躍高	中国人民大学	胡霞

〔波及効果〕

①【教育と研究、得意分野の一層の強化】

環境教育プログラムの普及と担い手育成を西部の各大学に拡げ、これを契機に多分野の研究PJへと発展させる。

社会的には環境問題の現れ方、環境に対する意識の異なる地域(日中、都市部/農村部)に対してそれぞれに即したプログラムを作成してその影響効果を測り再検討を加えることにより、一律でない環境問題に柔軟に対応できるシステム的な対応を可能にする基礎を与えることができる。

②【西部に島大の圧倒的な地位を築く】

日本と中韓との政治的環境が厳しい中だからこそ、先行する島大の有利性を活かして、本事業を契機に協定校を拡大し、中国西部地域に圧倒的な地位を構築する。

上記の環境教育プログラムを通じて、島根大学が培ってきた環境教育の方法的特徴を中国西部に移転し、島根大学のプレゼンスを高める。それにより学術・人材交流を促進することができ、また留学生増加も期待できる。

③【日本の大学の中での島大の位置を確立】

国際学術交流の新しいモデルを築き、今後重要性を増すアジアで、日本の他大学の追随を許さない島大の国際戦略の位置を確立する。

II - 6 著書・論文等

○伊藤勝久（生物資源科学部教授・研究所所長）

小菅良豪・伊藤勝久（2015）「岡山県北部における素材生産業者の地域特性とマネジメント戦略」『林業経済研究』61(2)、pp.1-12

伊藤勝久他（2015）「拡大造林地域における循環的林業を志向する「積極的森林経営」の担い手育成プロジェクト」研修用テキスト、島根大学、135p（pp.1-24,59-67）

Katsuhisa Ito (2015), Forest Owners' Management Behavior in delayed plantation area of Japan. The 12th Workshop on Social Capital and Development Trends in the Swedish and Japanese Countryside, Takayama, Gifu, 23th May

伊藤勝久（2015）「過疎地域振興に関わる外部からの応援隊と地域住民—地域おこし協力隊・集落支援員・Iターン者と地域住民意識—」, 第13回島根大学・寧夏大学国際共同研究所国際学術セミナー、寧夏大学（中国）、2015年10月15日～16日

小菅良豪・伊藤勝久（2015）「森林経営計画策定の推進要因と民間林業事業体の計画策定参入の意義と可能性」林業経済学会2015秋季大会、和歌山大学、2015年11月15日

伊藤勝久（2015）「中国農村の発展とソーシャル・キャピタルの変容—寧夏の農村を事例として—」, 立命館大学社会システム研究所国際学術交流研究会・経済学会経済セミナー「東アジアの土地・住宅と農業・農村問題」, 立命館大学（滋賀県）2016年1月15日

伊藤勝久（2016）「新旧島民の社会的関係性と幸福感—離島におけるソーシャル・キャピタルと幸福要素の計測—」現代世界経済セミナー、島根大学、2016年2月14日

科研

・伊藤勝久「中山間地域における林業合理化・森林管理・住民生活の為のマネジメント＝モデルの構築（代表 堤研二）」基盤研究A、2015年、30万円

一般助成

・伊藤勝久「平成27年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業」島根大学職域プロジェクト『拡大造林地域における循環的林業を志向する「積極的森林経営」の担い手育成プロジェクト』、文科省、2015年、559万円

・伊藤勝久「島根県「水と緑の森づくり」アンケート調査に関する研究」受託研究、2015年、24万円

○一戸俊義（島根大学生物資源科学部教授・国際共同研究所副所長）

Da Hye Kim, Toshiyoshi Ichinohe, Ki Choon Choi, Shinichi Oda, Akihiko Hagino, Sang Houn Song. 2015 (Sept.). Relationship between nutrient supply to muscle and adipose tissues and nitrogen retention in growing wethers fed forage based diets with different forage sources. Journal of Korean Society of Grassland and Forage Science 35: 238-244.

Da-Hye KIM, Ki-Choon CHOI, Toshiyoshi ICHINOHE, Sang-Houn SONG. 2015 (Nov.). Effects of different roughage sources and feeding levels on adipogenesis of ovine adipocytes. Animal Science Journal 86: 943-951.

Da-Hye KIM, Ki-Choon CHOI, Sang-Houn SONG, Toshiyoshi ICHINOHE. 2016 (Feb.).

Effects of grass forage species and long term period of low quality forage diet feeding on growth performance, nutrient utilization and microbial nitrogen yield in growing wether lambs. *Animal Science Journal* 87: 202-208.

金 多慧・崔 基春・小田伸一・萩野顕彦・岡田 太・宋 相憲 ・一戸俊義. 2015. 粗飼料主体の飼料を給与した育成メンヨウにおける窒素蓄積と組織への栄養素供給量との関連. 第 65 回関西畜産学会大会. 松山市. 9 月

井上憲一・一戸俊義・千田雅之. 集落営農放牧の成立過程と運営体制. 2015. 第65回地域農林経済学会大会. 鳥取市. 11月

木下晋吾・一戸俊義・宋 相憲. 2015. 異なる炭素鎖長の脂肪酸が反芻動物前駆脂肪細胞の脂質蓄積に与える影響. 第 38 回日本分子生物学会年会, 第 88 回日本生化学会大会 合同大会. 神戸市. 12 月

就 哲也・一戸 俊義・宋 相憲. 2015. 反芻動物前駆脂肪細胞の分化過程におけるパルミチン酸およびデキサメタゾンのchemerin遺伝子の発現調節. 第38回日本分子生物学会年会, 第88回日本生化学会大会 合同大会. 神戸市. 12月

山岡薫子・大谷陽菜・岡田絢香・一戸俊義. 2016. 中山間地域における和牛親子放牧の飼養モデルの構築. 平成 27 年度生物資源科学部ミッション研究課題成果報告会. 松江市. 2 月

一戸俊義. 中山間地域における和牛親子放牧の飼養モデルの構築. 2016. 平成 27 年度島根大学生物資源科学部ミッション研究課題報告書. 3 月

○大西広（慶応大学教授・研究所客員研究員）

「資本的另一層含义与榨取理论的拓展」『当代經濟研究』、2015 年第 5 期(孫世強との共著)、2015 年 5 月, pp.5-12

「今の中国をどう見るか--『中国脅威』論を前にして」『平和運動』第 539 号、2016 年 3 月
「第 7 回『人間発達の経済学』日中会議の成果と課題」『経済科学通信』第 137 号、2015 年 5 月 31 日

「アメリカ中心の世界秩序崩壊のはじまりと中国の動き」『アジア・アフリカ・ラテンアメリカ』第 659 号、2015 年 6 月 1 日

「中国マルクス主義経済学の提起」程恩富・胡樂明編著、岡部守・薛宇峰監修『経済学方法論 上巻 中国マルクス主義経済学の視点』八朔社、2015 年 9 月

「南洋協会創立 100 周年に当たって」『京都大学東アジアセンターNews Letter』第 600 号、2015 年 12 月 21 日

○富澤芳垂（教育学部教授・研究所兼任研究員）

- ・桑原哲也、富澤芳垂「同興紡織上海商務課長の回顧（上）——調虎雄氏（同興紡織）インタビュー——」『近代中国研究彙報』第38号、1～24頁、2016年3月。
- ・Yoshia TOMIZAWA, Kubo TORU, Koll ELISABESU, Chie ASHIZAWA, Wei ZHANG, Saoyang HONG, Convergence and Divergence: The Role of Chinese “Characteristics” and Global Factors in the Development of China’s Economy in the Early 20th Century, dXVIIth World Economic History Congress, 2015・8・6.
- ・富澤芳垂「近代中国における紡織技術者養成について」2015年度広島史学研究会大会東洋史部会（広島大学）、2015年10月25日。

○胡霞（中国人民大学经济学院教授・研究所客員研究員）

- 胡霞主编《现代农业经济学》中国人民大学出版社 2012年5月（教科書）
- 胡霞、丁浩 “农地流转影响因素的实证分析” 《经济理论与经济管理》（雑誌名）、2015年第五期、2015年5月（論文）

○谷口憲治（就実大学教授・研究所客員研究員）

- 谷口憲治「農地中間管理事業の特質と「担い手」育成の実現課題」『島根農政研究会 NOSEIKEN』島根農政研究会、平成27年3月、pp.2-7
- 谷口憲治・馬健「中国における食糧生産構造の変化と稲作経営の特徴」『就実論叢』就実大学 2016年3月発行予定
- 谷口憲治「広域集落営農型大規模農業経営の形成要因—島根県安来市農事組合法人Uを事例に—」『就実大学経営学会紀要第1号』2016年3月発行予定
- 谷口憲治「交渉経過と日米の社会的諸事情からみた TPP の本質」『島根農政研究会 NOSEIKEN』島根農政研究会、平成28年3月発行予定
- 谷口憲治「中国・四国地域における大規模水田経営の展開」pp.281～321 頁、堀口健治・梅本雅編『戦後日本の食料・農業・農村 第13巻 大規模営農の形成史』農林統計協会（東京）平成27年9月4日発行 pp.1-548
- 谷口憲治「農業の六次産業化の背景と岡山県の動き」2015年度就実大学公開講座前期、平成27年6月13日（土）10時～11時30分 s101教室
- 谷口憲治「地域資源を活かした地域づくり—日本酒と農村文化—」福田生きがいセミナー、平成27年9月18日（金）10時05分～11時35分（岡山市立福田公民館：岡山市南区古新田1186）
- 谷口憲治「グローバル社会における日本農業の現局面—農業産業化と農協の役割を中心に—」International Forum of Organic Agriculture Chehe China IFOA 2st 2015（国際有機農業フォーラム、第2回車河大会、2015年）車河有機農業論壇・美麗鄉村：中国山西省大同市靈丘県車河社区

Ⅲ 2015 年度研究所活動の記録

Ⅲ - 1 研究交流活動

Ⅲ - 1 - 1 2015 年 8 月 青海大学, 西北農林科技大学訪問

6 月 17 日から 24 日にかけて、青海大学および西北農林科技大学を訪問し、西部学術ネットワークの拡大に向けた協議を行うとともに、西北農林科技大学との協定を締結した。今後の西部学術ネットワークの活動の前進とともに、西北農林科技大学とは大学全体との交流を本格化する上で大きなステップとなる訪問であった。

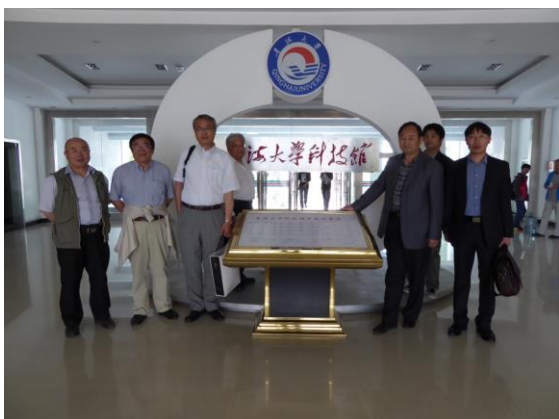
○日程

			一戸	伊藤	関	田中	松本	出口	
6月17日	水		出雲900→伊丹→関西1350→1625			銀川1015			
			北京1820→2100西寧			→1115西寧			
			西寧泊						
6月18日	木	午前	青海大学執行部と会見(島根大学の説明、西部ネットワークの説明など)						
		午後	研究者と座談会						
			農村開発(伊藤)、農業・畜産(一戸)、環境政策(関)、 環境教育(伊藤)、言語学(田中)						
			島根大学の得意分野の説明						
			汽水域(パンフ)、中山間地域(PPT)、環境教育(PPT)						
			環境教育プロジェクトの説明						
			西寧泊						
6月19日	金	午前	現地視察						
		午後							
			西寧泊						
6月20日	土	午前	西寧1205→1325西安						
		午後	現地視察						
			西安泊						
6月21日	日	午前	現地視察および今後の国際共同研究の申請テーマに関する意見交換				出雲900→伊丹→関西1410→1530		
		午後					上海1700→1925西安		
			楊凌泊			楊凌泊			
6月22日	月	午前	執行部と会見(島根大学の説明、西部ネットワークの説明など)						
		午後	研究者と座談会						
			灘羊PJ(一戸、 楊、陳)	環境教育PJ(松本、伊藤、関、田中、余)				西安視察	
			楊凌泊						
6月23日	火	午前	西安1000→1210北京			西安1025	西安0800→1000上海1235→1540関西		
						→銀川	→伊丹→出雲		
		午後	1500 JICA(小中所長、宮崎副所長、前島環境担当)						
			北京泊						
6月24日	水	午前	北京0840→1240関西						
		午後	→伊丹→出雲						

青海大学への訪問と協議（6/17～6/20）青海省 西寧市



青海大学における協議会 6/18



青海大学科技館の視察 6/18



青海湖の視察（標高 3200m の塩湖） 6/19



湖の周囲は砂丘地



羊、牛の肥育施設(寧夏夏華牧畜集団)の視察



大規模な野菜栽培施設（土族互助県蔬菜産地施設農業モデル基地）の視察 6/20



大規模な野菜栽培施設の内部 6/20
大学と連携した技術指導

西北農林科技大学への訪問、協議



西安市 碑林博物館 6/20



出口副学長、松本教授到着。大学植物園で



大学間交流についての協議 6/22



環境教育に関する研究報告会 6/22



西北農林科技大で日本留学経験のある教員との懇親会 6/22

Ⅲ - 1 - 2 寧夏大学, JICA 訪問

3/2-3/9 にかけて、伊藤所長・関副所長・青国際交流センター教授・保母顧問が北京および銀川を訪問し、各種団体・個人との情報交換・交流を行った。今後の研究所の活動の展開につながる意義深い情報交換が出来た。訪問先および用務は以下の通りである。

3/3 JICA 北京事務所所長 中里太治氏

今後の研究所による環境教育事業に関する意見交換

中日友好協会 程海波 副秘書長

研究所の紹介と今後の事業展開についての意見交換

3/4 希平会（日中高等教育交流連絡会）にて研究所の紹介と意見交流

3/5 日中環境技術情報プラザ見学／中国人民大学・胡霞教授・方芳教授と意見交換

3/7 銀川市にて新研究所長・周震氏らと今後の研究所運営の方向性について議論

3/8 寧夏大学土木学院との意見交換、寧夏大学新書記・金能明氏との面談・意見交換

○日程

	青晴海	伊藤勝久、関耕平	保母武彦
2016/3/2	出雲空港→羽田→北京 12:20→13:40→20:30 JL025	出雲空港→伊丹→関空(泊) 1855-1945 JAC2358	
2016/3/3	北京農學員訪問	関西→北京 9:00→11:20 CA162 ・午後3時 JICA中国事務所 ・午後4時半 日中友好協会	
		・北京泊	
2016/3/4	北京→羽田 08:25→12:45 JL020	・午前 (劉海濤と面会) ・午後 JSPS北京センター 「希平会」に出席 ・北京泊	
2016/3/5		日中環境技術情報プラザ見学(外観) 中国人民大学訪問 ・北京泊	
2016/3/6		北京→銀川 10:50→12:55 MU 2122 ・午後 余勁先生(西北農林)と面会 ・銀川泊	
2016/3/7		・寧夏大学で協議 研究所運営会議など ・銀川泊	関西→(上海経由)→銀川 1240-2025 吉祥航空1335
2016/3/8		・寧夏大学で協議 寧貨大学書記・金能明氏と会談 ・銀川泊	
2016/3/9		銀川→(上海経由)→関西 8:10→16:20 吉祥航空1335 関西→松江(JR)	

Ⅲ - 2 その他の交流記録

Ⅲ - 2 - 1 寧夏・銀川連絡会

寧夏・銀川連絡会を開催し、次の内容について、情報交換を行った。

○目的：島根県、松江市との情報交換・連携の強化

○日時：平成27年8月28日

○情報交換の内容

1. 島根大学

第13回日中国際学術セミナーの開催について

寧夏大学からの学生受入状況について

2. 島根県

JICA草の根技術協力事業終了後の継続事業の可能性について

島根県「交流の翼」事業について

島根県立大学学生の寧夏大学の留学希望について

寧夏大学から島根県立大学への学生受入状況について

NPO法人日本寧夏友好交流協会の交流事業について

3. 松江市

銀川市との技術交流について

Ⅲ - 3 資料・情報の提供

Ⅲ - 3 - 1 翻訳，資料収集と提供

- ・日本側研究者からの必要・要望に応じて翻訳を行った。

Ⅲ - 3 - 2 研究所メールマガジン『寧夏情報』

- ・寧夏情報（関係者向け）毎月1、2回（2015年4月～2016年3月末 8回発信）

Ⅲ - 3 - 3 研究所『ニューズレター』

- ・研究所の活動状況、寧夏に関する情報、関連論文等を掲載。

Ⅲ - 4 その他の活動等

Ⅲ - 4 - 1 日本への留学支援

寧夏大学外国語学院日本語科への支援（田中研究員）

- ・講義の担当
- ・日本語コーナー等イベントへの参加

日本留学希望者に対する相談対応と派遣支援

- ・留学説明会の開催（所長訪問時に開催）
- ・相談対応（留学に関する説明、パンフレットの配付等）

Ⅲ - 4 - 2 研究所来訪実績

月 日	訪 問 者
10月14日	島根大学訪問団 国際セミナー参加（～10月17日）
2月24日	島根県技術士会 林秀樹会長、日本国際協力機構 中国人民共和国事務所 前島幸司所長助理、他6名
3月6日	研究所日本側伊藤所長、関副所長（6日～9日）、保母顧問（7日～9日）

IV 研究所の組織

○H27年度の運営体制

役職	日本側	中国側
顧問	保母武彦 (島根大学名誉教授)	陳育寧 (元寧夏大学長)
所長	伊藤勝久 (島根大学生物資源科学部教授)	王鋒 (寧夏大学教授)
副所長	一戸俊義 (島根大学生物資源科学部教授)	李紅 (寧夏大学行政管理人員)
	関耕平 (島根大学法文学部准教授)	劉曄 (寧夏大学副研究館員)
研究員	田中奈緒美	蔵志勇 (寧夏大学助理研究員)
		李楊 (行政担当)

○客員研究員名簿

氏名	所属	研究分野
鄭蔚	中国 南開大学日本研究院	農業経済学、金融学
周建中	日本 東京成徳大学人文学部	生物環境科学、民族歴史文化、人口と教育問題
高橋健太郎	日本 駒沢大学文学部地理学科	人文地理学
胡霞	中国 中国人民大学经济学院	発展経済学、農業経済学
富野暉一郎	日本 龍谷大学法学部	市民自治、調和型連動社会、地域環境政策
胡勇	中国 北京農学院人文社会科学部	社会学、社会福祉学
張偉	中国 北京工商大学经济学院	ミクロ金融、発展金融、中小企業融資、東アジア金融協力
大西広	日本 慶應義塾大学経済学部	統計学、経済システム論、中国経済数量分析
氏川恵次	日本 横浜国立大学大学院 国際社会科学部研究科	経済政策・環境経済
谷口憲治	日本 就実大学経営学部	農業経済
劉海濤	日本 JICA 研究所	農村金融

V 資料その他

V - 1 国際共同研究所ホームページ・トピックス

島根大学・寧夏大学国際共同研究所	
トピックス	一覧
トップページへ戻る	
2015	
2015.12.09	2015年度日中国際学術セミナー(第13回)を開催しました NEW
2015.12.09	寧夏大学で島根大学留学説明会を開催しました NEW
2015.08.05	国際共同研究所の新しいパンフレットができました
2015.07.27	2015年島根大学・寧夏大学国際共同研究所国際学術セミナー開催通知
2015.07.10	島根大学訪問団が西北農林科技大学を訪問しました
2015.03.31	国際共同研究所の年報 第8号を発刊しました
2015.03.31	寧夏大学で島根大学留学説明会を開催しました

※詳細については、島根大学・寧夏大学国際共同研究所のホームページをご覧ください。

<http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/topix.html>

国際共同研究所の年報 第8号を発刊しました

この度、島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報の第8号(2014年度版)が2015年3月末に発刊されました。



第8号(2014年度版)
クリックするとPDFが開きます

ご用命の際は島根大学学術国際部国際交流課までお問い合わせください。

TEL:0852-32-9735/FAX:0852-32-6481

Email: ied-koryu@office.shimane-u.ac.jp

※メールアドレスは迷惑メール防止のため、画像ファイルで掲載しています。

過去の年報については「[年報一覧](#)」ページをご覧ください。

島根大学訪問団が西北農林科技大学を訪問しました

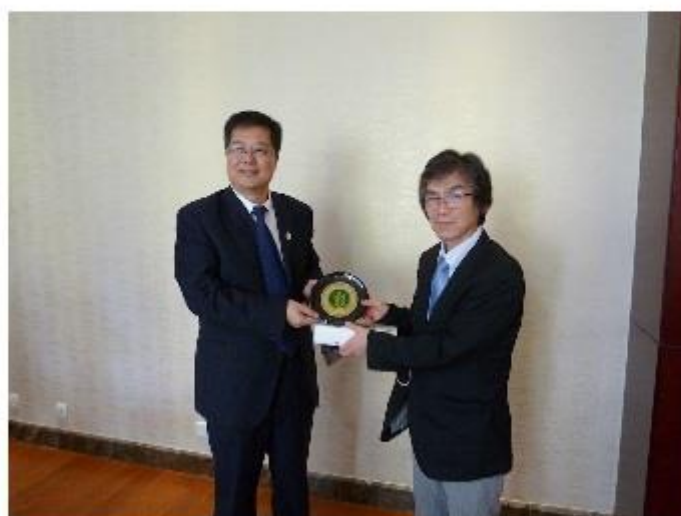
平成27年6月22日、出口副学長を代表とする島根大学訪問団計6名が中国陝西省の西北農林科技大学を訪問しました。この度の訪問は、5月22日に締結された両校の学術交流協定を基盤とし、今後どのように交流を進めていくかについて協議するために実施されました。

協議では、西北農林科技大学から、羅軍副校長、田霄鴻資源環境学院長、趙敏娟経済管理学院長、喬文軍国際合作交流処長らにご出席いただき、両校の歴史や得意とする学術分野の紹介及び学生の相互交流の可能性等について情報交換を行いました。また、今回の友好提携は、当研究所を中心として島根大学が推進する「西部学術ネットワーク」の拡大を目的の一つとしていますが、この「西部学術ネットワーク」に対しても、大学としての積極的な支持をご表明いただきました。

両校の間では、すでに環境教育分野や畜産分野での共同研究が進展していますが、今回の大学間の友好提携により、さらなる交流の発展が期待されます。



協議の様子



羅軍副校長と出口副学長

2015年島根大学・寧夏大学国際共同研究所国際学術セミナー 開催通知

2015年10月15日・16日の2日間、寧夏大学と島根大学の共同主催、島根大学・寧夏大学国際共同研究所の実施による「第13回島根大学・寧夏大学国際共同研究所国際学術セミナー」が、中国・寧夏大学で行います。

○セミナー名:

第13回島根大学・寧夏大学国際共同研究所国際学術セミナー

○開催日時:

2015年10月15日(木)～16日(金)

○会場:

寧夏大学

○テーマ:

- 1 農林業、食品、水環境、資源保護、経済発展問題に関する研究
- 2 世界経済の低迷及びそれが農村に与える影響に関する研究
- 3 中国寧夏南部山区と日本の中山間地域に関する比較研究
- 4 生態システム、環境の保護と再生、農村の経済及び社会の発展の関連性を探る研究
- 5 日中両国における民族学、宗教学、教育学等の関連問題に関する研究
- 6 「1ベルト、1ロード(一帯一路)」に関連する国際間の経済発展に関する研究

発表応募について

上記のテーマに沿った最新の関連研究成果を募集します。下記①及び②の電子データを、セミナー事務局(臧志勇zangzy6@163.com)までお送りください。

その際、メールにご氏名とセミナー参加の旨を明記してください。

①発表要旨 日本語版及び中国語版 各1部

(各言語500字前後。氏名、職業、所属先、メールアドレス。発表タイトルを明記のこと。

翻訳版は各自でご用意ください。)

②発表時にPPTを使用する場合、そのPPTファイル

参加申込(要旨提出)締切日

2015年9月15日(火)

その他

・発表時間:

一人あたり30分間(発表10分、通訳10分、質疑応答10分)

・プロシーディング集について:

セミナー終了後、プロシーディング集を発行する予定です。発表者は、2015年11月20日(金)

までに論文本文をセミナー事務局までお送りください。

・費用について:

セミナー参加費は無料です。その他の費用(交通費、宿泊費、食事代等)は各自でご負担ください。

セミナー事務局(要旨等提出先)

島根大学・寧夏大学国際共同研究所 中国側(担当 臧志勇)

メールアドレス: zangzy6@163.com 電話番号: (+86) 18795180163

住所: 〒750021 中国寧夏回族自治区銀川市西夏区賀蘭山西路489号 寧夏大学

国際共同研究所の新しいパンフレットができました



島根大学・寧夏大学国際共同研究所の2015年度版パンフレットができました。

島根大学学術国際部国際交流課で保管しておりますので、ご希望の方はご連絡下さい。

◇◇連絡先◇◇

電話:0852-32-9735

FAX:0852-32-6481

Email: ied-koryu@office.shimane-u.ac.jp

寧夏大学で島根大学留学説明会を開催しました

平成27年10月16日、寧夏大学外国語学院213教室にて、島根大学の留学説明会が開催されました。寧夏大学外国語学院、経済管理学院、資源環境学院、土木水利学院、生命科学学院、政法学院、人文学院、物理電気情報学院から31名の学生が参加しました。

説明会では、まず、研究所日本側所長である伊藤勝久教授より、島根大学の紹介、カリキュラムの概要等の説明、日本での学生生活や日常生活についてお話しいただき、その後質疑応答の時間が設けられました。質疑応答には島根大学教育学部の松本一郎教授も加わり、学生からの質問に丁寧に答えられました。学生からの質問は、国費留学生や交換留学生等留学のシステムや入試の方法について、また最近の世相を反映して、日本での生活における困難等、多岐にわたりました。この説明会で、学生の日本に対する興味や理解がより深まったのではないかと思います。

島根大学は、今後も定期的に寧夏大学における留学説明会を開催する予定です。

留学説明会の様子



2015年度日中国際学術セミナー(第13回)を開催しました
「共催:日本学術振興会北京研究連絡センター」



2015年10月15日(木)～16日(金), 寧夏大学にて第13回日中国際学術セミナーが開催されました。今年度は全体テーマを「国際化の背景下における多学際・多領域の持続可能な発展に関する研究」とし、全部で17本の学術発表が行われました。

1日目は、開幕式と主題報告が行われました。主題報告は、研究所日本側顧問である島根大学の保母武彦名誉教授による「日本の新しい政策動向:『地方創生』」、寧夏社会科学院の陳通明元副院長による「寧夏における社会保険事業の発展状況に関する研究報告」、寧夏大学の左理元副校長による「産業及び教育による貧困支援の結合こそ農民の脱貧困の持続的な道である」の3本で、経験豊かな先輩方のご報告を直接聞くことができ、参加者にとって大きな刺激となったようです。



2日目は分科会に分かれて学術発表が行われました。今年度のセミナーの特徴として、分科会が自然科学系と社会科学系という大きな枠組みで設定された点があげられます。そのため、学術的に詳細なやり取りができなかった点は否めませんが、一つの分科会でさまざまな分野の発表があったため、全体テーマにふさわしい、分野を超えた交流をすることができ、この点はご出席いただいた研究者の方々から好評をいただきました。また、島根大学側の立場から言えば、これまで交流の少なかった分野の中国側の先生方と接触する機会が持てたことで、新しい共同研究への道が開けたのではないかと思います。



会場風景



分科会

V - 2 寧夏プロジェクト報告用ポスター

特定研究 寧夏プロジェクト 2015年度の成果報告

■プロジェクトの概要

島根大学と寧夏大学の長年にわたる研究・教育の交流に基づき、2006年に寧夏大学構内に「島根大学・寧夏大学国際共同研究所」が設立された。中国沿岸部における日本の大学の進出は珍しくないが、**中国内陸部に研究拠点を置くのは、日本でも本研究所のみである。**こうした研究条件を活かしつつ、本プロジェクトにおいては、日中両国の条件不利地域における経済・社会・生態の改善に関する理論・政策研究を日中共同で実施し、若手研究者の育成・交流や中国北西部地域研究の国際的な拠点づくりを実施している。

共同研究所（中国・寧夏）に日本人スタッフ1名派遣させ、また国際学術セミナーの開催や近隣大学との中国西部学術ネットワークを構築するなど、「国際共同研究」の深化を着実に進んでいる。昨年度は研究所設立10周年を経て、さらなる活動強化に取り組んでいる。

<今年度の主な取り組みと成果>

- ① 第13回 日中国際学術セミナーの開催（2015年10月：寧夏大学）
- ② 日中双方の現地調査の実施
- ③ 中国北西部の他大学との学術ネットワークの拡大と共同プロジェクトへの発展
- ④ 環境教育研究プロジェクトの実施

■研究成果の報告：日中国際学術セミナーの開催

毎年、中国および日本、交互に学術セミナーを開催し、日中の共同研究の深化を図っている。

●第13回 日中国際学術セミナー（2015/10/15～16）（開催場所：寧夏大学）

今年度は全体テーマを「グローバル化時代における持続可能な発展に関する学際的研究」とし、全部で17本の学術発表が行われた。今年度のセミナーの精髓として、分科会が自然科学系と社会科学系という大きな枠組みで設定されたことで、全体テーマにふさわしい、分野を超えた交流を実現できた。また、これまで交流の少なかった分野の中国側の研究者と接触する機会が持て、新しい共同研究への道を開くことができた。





青海省における砂漠と畜産



■共同研究の深化と若手研究者育成

「寧夏南部山区を中心とする条件不利地域の経済、社会、生態の発展・改善に関する社会科学及び理工農等の各分野の共同研究を創出する」という国際共同研究所の目標のもと、めん羊の飼育、農村における環境教育と環境意識など、広範な分野にわたる研究班を編成し、日中の両現場で共同調査を実施した。とくに環境教育に関して、6月には中国、10月には日本でそれぞれセミナーを実施した。

■中国西部学術ネットワークの拡充

国際共同研究所を起点としながら、寧夏大学のみならず、中国北西部の大学との学術交流組網の拡充を実現した。昨年度から、共同を強めている陝西省の西北農林科技大学に加え、今年度は青海省の青海大学を訪問し、小セミナーおよび現地調査を実施。今後の共同研究の可能性を議論した。地域貢献を重視し、実績を着実に積み重ねている同大学との交流と共同研究を、今後強化していく予定である。

■中国西部学術ネットワーク拡大による島根大学プレゼンスの増強

学長教員経費：「中国西部学術ネットワーク拡大による島根大学プレゼンスの増強—環境教育実践システムの移転とグローバル人材育成—」として、2014年～2015年にかけて、日中双方でのアンケートによる意識調査と国際比較を行い、島根大学が先導的に取り組んできた環境教育に関するノウハウの移転と人材育成という本国際共同研究所の設立目的達成に向けたプロジェクトを推進し、環境教育セミナーを両国においてを実施した。



島根大学・寧夏大学国際共同研究所ホームページ：<http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/>

V - 3 事業計画

平成27年度 島根大学・寧夏大学国際共同研究所事業計画

1. 共同研究・研究交流事業

(1) 日中共同学術研究の推進

①戦略的機能強化推進経費「中国西部学術ネットワーク拡大による島根大学プレゼンスの増強—環境教育実践システムの移転とグローバル人材育成—」の実施（寧夏大学・西南大学・西北農林科技大学）による現地調査研究とワークショップの実施

②戦略的機能強化推進経費「寧夏プロジェクトによる島根大学・寧夏大学国際共同研究所の機能強化」の実施

③中国側研究者による国際比較研究（日本中山間地域の調査研究等）の受け入れ・支援

④環境教育に関連した国際共同研究の実施

⑤その他の個別研究および共同研究の実施（西北農林科技大学動物科学院との「灘羊の肉質改善に関する研究」、蘭州大学草地農業科技学院との「草地畜産研究」等）

⑥民間助成をはじめとした外部研究資金への申請と獲得

(2) 学術交流事業の実施

第13回日中国際学術セミナーの実施（テーマ：未定、2015年10月15・16日に寧夏大学において開催予定）

(3) 研究ネットワークの拡充

- ①日中国際学術セミナーの場を利用した共同研究・交流事業の推進
- ②中国西部地域の学術ネットワークによる研究プロジェクトの推進（西北農林科技大学・西南大学）
- ③青海大学との研究交流の開始
- ④客員・兼任研究員の増員
- ⑤研究会の定例化等による学内外の研究ネットワークの拡充

(4) 研究成果の発信

①国際共同研究の成果に基づく研究専門書の出版準備

2008年以來の研究所による研究成果の出版に向けて、原稿執筆依頼・編集作業を進め、研究出版助成を申請し、2015年度中に出版する

②島根県の『環境教育指針』（環境教育の指導者用教科書）の翻訳と寧夏回族自治区における出版・普及

③日本の農山村研究の成果発信

日本側メンバーにより日本の農山村に関する原稿を分担執筆し、『世界の農村事情』に収録、中国農業大学出版社より刊行する。

④HPの充実による研究成果の発信強化

・人材育成事業

(1) 寧夏大学からの留学生獲得に向けた協力

(2) 寧夏からの留学経験者等の情報交換ネットワークの形成支援

(3) 若手研究者の育成

国際学術セミナーおよび現地調査に参加する日中若手研究者の人材育成を推進する

(4) 自治体間国際交流・人材育成研修への協力

銀川市農牧局からの松江市への有機米生産に関する人材育成研修受け入れに対する協力

3. 教育・交流への協力

(1) 島根大学・寧夏大学国際共同研究所図書館の運営と充実

(2) 寧夏大学日本語学科への講義の協力、実習生の受け入れ

(3) 寧夏大学やその他周辺主要大学の留学希望者に対する情報提供と留学説明会の実施

(4) 島根県、松江市やNPO法人 日本・寧夏友好交流協会等との情報交換・連携の強化（寧夏・銀川連絡会の開催）

4. 研究所の運営

- (1) 各種委員会の開催
- (2) 研究所年報の発行（第9号、2015年度版）
- (3) 研究資料の配信
 - ① 情報提供（寧夏情報の提供、ニューズレターの発行、研究所ホームページの充実）
 - ② 文献翻訳・関連論文の提供
- (4) 国際共同研究所の広報の強化
 - ① 山陰中央新報社からの同行取材の受け入れ
 - ② JICA、JSPS、JST への訪問による情報交換と成果発信
 - ③ JSPS による日本の中国所在大学サテライトの交流組織・希平会への出席による情報発信

島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報 第9号 2015年度

2016年3月31日発行

発行者 島根大学・寧夏大学国際共同研究所
(所長 伊藤勝久)

〒750021 中国寧夏銀川市西夏区賀蘭山西路寧夏大学A区
TEL +86-951-206-1818

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学内
TEL 0852-32-6547 (伊藤勝久)、32-9735 (国際交流課)

Homepage <http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/index.html>
